

ひので/X線望遠鏡が観測した太陽X線ジェット

Solar X-ray Jets observed with XRT/Hinode

下条 圭美 [1]

Masumi Shimojo[1]

[1] 国立天文台

[1] NAOJ

ひので衛星は、昨年9月に打ち上げられた太陽観測衛星であり、今までにない高分解能をもつ、可視光・極紫外線・X線の望遠鏡が搭載されている。ひので衛星は、打ち上げから順調な運用が行なわれ、いままでに見ることがない、太陽画像を取得している。

ひので衛星に搭載されたX線望遠鏡(XRT)は、その高分解能により、コロナ中で発生するさまざまな現象の微細構造の画像を得ることができた。その現象の中のひとつが、太陽X線ジェットである。太陽X線ジェットは、ようこう/軟X線望遠鏡で発見された、コロナ中のジェット現象である。ひので/XRTの観測により、高頻度で太陽の極付近でジェットが発生していることがわかった。また、ジェットの微細構造が明らかになり、磁気リコネクションモデルとの詳細な比較が可能となっている。

本公演では、ひので衛星の紹介をすると共に、極域、特にコロナホールで発生したX線ジェットに注目し、太陽X線ジェットの微細構造と磁気リコネクションモデルの詳細な比較や、太陽風へのジェット現象の寄与について議論する。